

平成27年度 五泉市社会科部 活動報告

部長 立川 徹也

1 活動のねらい

- ・学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、授業研究を進める。
- ・社会科に関する地域素材を探り、その教材化を図る。

2 活動内容

(1) 3年生「見直そうわたしたちの買い物」の指導計画・資料を持ち寄り、情報交換（6月）

ア 単元導入時における買い物調べの方法について

イ 見学時における見学の視点の持たせ方について

ウ スーパーとコンビニの取り上げ方について

上記の三点について、情報交換を行った。買い物調べに使うカードの内容、教科書にある「スーパーの絵資料」の効果的な使い方、スーパーとコンビニ、それぞれのよさを児童に考えさせるためにどのような単元を計画すればよいかなどである。

(2) 地域の歴史的事象に関する巡検（9月） 巡検先 村松郷土資料館・民具資料館

数多くの展示資料の中でも興味深かったのは、「村松城下絵図」である。この絵図は、宝暦年間（約250年前）に作られたもので、当時の道路、各屋敷の間口や奥行きが細かく書かれている。村松は数回の大火で街の多くを焼失してきた歴史はあるが、かぎ型の道路など基本的な街並みは今に続いているものも多くあることがわかり、先人の街づくりに対する思いに触れることができた。



(3) 授業研究（10月）

① 単元名 3年「店ではたらく人のしごと」 村松小学校 教諭 立川 徹也

② 授業の概要

授業では、これまでの学習（スーパーのよさ）を振り返った後、「コンビニに行くのは、スーパーと同じよさがあるからだ。」という学習課題について考えを出し合った。その中では、食べ物や飲み物（ペットボトルの種類）など品ぞろえがよいというスーパーと同じよさがある反面、24時間営業の便利さや、店は狭いけれど欲しいものが素早く買えること、売れ筋のものから並べる陳列方法など、コンビニ独自のよさもあるという意見も出された。そこで、資料としてスーパーとコンビニの売り場見取り図が提示され、その違いからさらに考えを深めるための話し合いがなされた。



3 成果と課題

今年度も、教師自身が地域に目を向け、もっと深く地域を知るということで、村松郷土資料館・民具資料館の巡検を行った。普段なかなか知りえない情報を数多く知ることができ、今後の授業実践に役立てていきたいと思った。

今後、地域に根差した社会科授業を誰もが実践できるようにするために、実践例の蓄積や資料の活用方法、見学の問い合わせ先などをまとめた「地域素材を生かした授業づくりハンドブック」の作成を手がけていくことが、これからの市小教研の活動として必要だと感じられた。